



白山ねぎ管理情報（梅雨明け以降）

平成27年7月23日

J A松任・J A白山・石川農林

1 病害虫防除について

7月中旬以降、平年より気温の高い日が続いています（7/21 梅雨明け）。現在、アザミウマが連続発生し、白絹病の発生も目立ち始めています。今後は、軟腐病の発生が増加するものと予想されます。各圃場の出荷時期を考慮した早めの防除及び台風対策を実施しましょう！

①ネギアザミウマ

かすり症状が見られる圃場では、病害と併せて防除を行う。特に、8、9月出荷を予定している圃場は出荷時に必要な葉に被害が出ないように仕上げ防除が必要。

※防除1回のみでは卵（植物体内）、蛹（土中）が残るので、必ず2回以上防除を行う。



アザミウマによる「かすり症状」

②白絹病

発生初期は下葉枯れが目立つようになり、徐々に軟化・腐敗する。病状が進むと地際部に白いカビが生え、その後に淡褐色粟粒状の菌核を生じる。特に連作圃場で発生しやすいため、土寄せ時に対応薬剤を株元施用して土寄せを行う。



降雨後、下葉枯れが多発 → 白絹病の可能性あり



粟粒状の菌核 → 翌年度の発生源

③軟腐病

30℃以上で発生が多くなる。葉や根の表面にできた傷口から細菌が侵入し、悪臭を放ちながら急激に軟化・腐敗する。病気の進行が早く、症状が進むと防除困難となる。土寄せ時のオリゼメート施用や風雨後の薬剤散布を行う。

④その他病害虫

「ヨトウムシ類」や近年見られなかった「さび病」の発生が散見される。

注意！

高温時期（梅雨明け～8月中旬頃）の追肥・土寄せ作業は、根を傷め、軟腐病の原因となるので極力控える。 ※夏秋ねぎの最終土寄せ時は必ず防除！

◇9月上旬までの土寄せ作業は、日中の高温時を避け、地温が低下した夕方に実施。

【防除例】 ※薬剤散布時は、展着剤を加用すること！

①ネギアザミウマ・ヨトウムシ類

ハチハチ乳剤 1,000倍（3日前、2回以内） ※さび病、べと病にも登録あり
〔混用する殺菌剤〕

- ・目立った病害が見られない場合

ジマンダイセン水和剤 600倍（14日前、3回以内） を混用

- ・高温期の土寄せ後や豪雨後など軟腐病の発生が懸念される場合

スターナ水和剤 2000倍（7日前、3回以内） を混用

②白絹病

土寄せ時：モンガリット粒剤 4～6kg/10a（14日前、3回以内） または

薬剤灌注：ロブラール水和剤 500～1000倍（14日前、1畝/m²、3回以内）

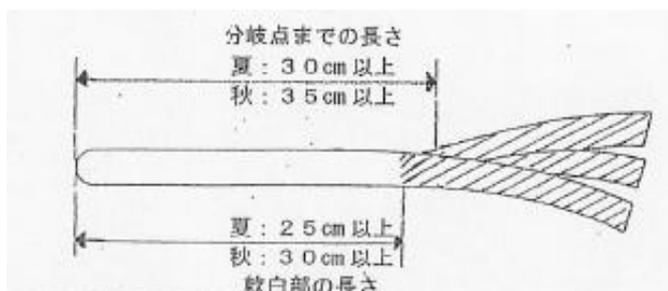
2 台風対策について

- ・2～3m間隔で両側に支柱を立て、ハウスバンドで挟む
- ・分岐点までやや多めの土寄せを行う ※高温対策にも有効
- ・台風通過後は、倒伏をすぐに直し、殺菌剤防除を行う



3 夏秋ネギ（8～9月出荷）の最終土寄せについて

- ・軟白期間は15～20日が目安。分岐長や太さが確保でき次第、収穫期から逆算し計画的に実施。



夏：夏秋ネギ（8～9月出荷）秋：秋冬ネギ（10月以降出荷）

- ・出荷規格 分岐長 30cm以上 軟白長 25cm 太さ(L) 1.5cm以上
- ・出荷後の赤葉発生防止のため、追肥（窒素成分で3kg/10a程度）を実施